

**問** 国民健康保険特別会計で、前年度に比べて国民健康

保険税の収納率に改善が見られるものの、収入済額の5分の1の収入未済額がある。減額措置などが講じられているにもかかわらず、このようになった原因は何か。また、不公平感が否めないが、今後、どう対応していくのか。

**答** 主な滞納理由としては、納税意識の欠如が滞納件数全体の約29パーセントを占め、滞納金額は約1億8千万円。次に、事業不振・失業・倒産・破産・借金等が約26パーセントで、滞納金額は約2億6千万円。3番目に病気・貧困が約20パーセント、滞納金額は約1億3千万円となっている。

今後、日常的には粘り強い納税交渉に努め、家庭の事情を考慮しながらも納付に至らない場合には、最終的に滞納処分もやむを得ないと考えている。

**問** 公共下水道事業特別会計で、計画区域内における公共下水道の接続率が低い。今後、普及促進に対して、どう取り組んでいくのか。

**答** 接続率の低い東予・丹原処理区においては、水洗

化の工事をせずとも、当座はくみ取りなどで足りるとの認識が強いことに起因しているものであり、今後とも普及促進の努力を継続していくしかないと考えている。

**問** 小松地域交流事業特別会計で、石鎚山ハイウェイ

オアシス館・椿交流館の使用料及び手数料が、前年度に比べて約11パーセント減少している。平成18年度の決算審査の際、向上すべく努力する旨の答弁があったが、このような結果となったことをどう認識し、今後、どう対処していくのか。

**答** 石鎚山ハイウェイオアシス館の展示については、マンネリ化が指摘されているが、独自事業を実施し来館者の確保に努めたい。

また、椿交流館利用者の減少については、エリア内の温泉施設乱立が影響しているものがあるが、特徴である景観の良さや、高速道路から直接アクセスが可能であること、さらには美肌効果などを売りにして可能な限り

の集客に努めたい。

**問** 本谷温泉事業特別会計で、高齢者の割引制度利用の際に、証明書の提示を求められることが不評と聞かすが、何らかの改善策がないか。

また、利用者減少の要因にはアクセスの問題もあり、JR伊予三芳駅から無料バスを運行するなどの工夫はできないのか。



本谷温泉館

**答** 当初、聞かれたそのような声も現在では聞かれず、制度が受け入れられたものと理解している。より利用しやすい施設とするための検討は、今後さらに行なうべきと考えている。無料バスについては、不便な

からも公共交通機関が運行されており、経費的観点から専用バスの運行は難しい。実際に、かなり山へ入っていかねばならないという問題はあるが、むしろそれを長所と感ずるかたもおり、ひなびた温泉の良さを発信していきたい。

### 病院事業会計決算

**問** 市立周桑病院の経営コストの削減に向けた取り組み状況について問う。

**答** 人件費については、臨時職員を72名から17名に削減し、約1億2千万円の削減が図られた。

また、経営改革については、基本的に委託を行うのが通常の手法であるが、職員を抱えたまま委託することは人件費の二重払いとなるとの考えから、自らできることは自ら行うこととして約4千万円を削減した。さらに、備品についても漫然と更新するのではなく、補修対応により約2千500万円の削減をしたが、どうしても更新せざるを得ない場合もある。

**問** 各分野で経費削減の努力が見られるが、依然として収益に対する人件費の割合が高いことから、これが今後の経営改善の最大の課題となると思うが、どう考えているのか。

**答** 人件費率は経営の一つの指標となっており、経費削減の最大のネックでもある。経営改善に柔軟に即応するには、

医療従事者のリストラも考えなければならぬが、地域医療を守るためには医師の確保とともに、法定基準の看護師や技師など要員の確保が必要である。総合病院としての高水準の医療スタッフの養成には、一定の期間を要するため、これまで養成してきたスタッフのリストラは最後の手段と考えている。

今回の経営改革は、小手先のものではなく、抜本的なものではなくてはならないところにまで至っており、この問題が最も重要と認識しており、今後も真剣に取り組んでいきたい。

